

國際文化交流學科 — 學科祭報告

外国语学部
国際文化交流学科1年
鹿庭 敏太

今年度新設された国際文化交流学科の第一回学科祭が11月12日（日）、川崎市国際交流センターにて行われた。「国際文化交流へのFirst Step」をテーマとした初めての学科祭。その始まりは、もうすぐ夏休みが始まる7月のある日だった。

はじめの一歩

「夏休みどうする？」そんな話題が飛び交う中、2人の学生が鳥越研究室の戸を叩いた。

一三
和樂の入

やつてみたいことをがむしゃらに言い合い、その日の授業で学生に呼びかけた。

やることが決まつた

なことすればいいのか、企画し
ん、参加したことすらなく、戸
ゲストとの交渉に取り組んだ。

戸惑いながらの交渉
やることが決まったが、パーティーではどんなことすればいいのか、企画したことはもちろん、参加したことすらなく、戸惑いながらも、ゲストとの交渉に取り組んだ。

マナー講座の講師には、堺真理子さんを迎えたことにした。東京都労働局講師の堺さんは、国内だけでなく海外でも国際マナー講座を開講し、またその対象も政府機関から学校までと多岐にわたり、さらに国際交流パーティの主催

まで行うという活発な活動をされている方で、「国際舞台で活躍するためのマナーと人間力」と題した特別授業を受け持つていただくことになった。

34
人
/
03
人

後期の授業が始まり、料理の関係から人數を決める必要もあり、授業内で学生に学科祭があることの告知と参加受付を行つた。テーマをよりわかりやすく、よりシンプルに、そして記憶に残るようなことばとして、「国際文化交流へのFirst Step」に変更し、学科生みんなそれぞれの国際交流への第一歩を踏み出す、そんな場所をプロデュースすることとした。

授業の時間をいただき、プレゼンテーションを行い、翌週、出欠表を提出してもらつた。出席者の数を数えたとき、企画部内に衝撃が走つた。

回答56人
出席34人

どうすればいいかわからなくなつた。出席表明した人が学科生のわずか約三分の一だなんて……。僕たちは国際文化交流学科の第一期生で



マナーから生まれる新しい視野
11月2日、ついに迎えたこの日。企画部の成

太

PLUS i 76



阿部恒憲さんからのメッセージ

学科祭では、皆さんとお会いできてとても楽しかったです。今後国際人として活躍していく皆さんには、人生の20代のうちは、いくつかの選択肢のうち「決して楽ではない道」を選ぶべきです。困難は、乗り越えられる人にのみ与えられるもの。困難から逃げずに、チャレンジする姿勢を忘れないでください。またお会いできる日を、心より楽しみしております。

つね



き上げたチャリティーソング。阿部さんにとつても思い入れのあるこの曲をゲストボーカルに植田有由実さんを迎えて、熱唱していただいた。会場内ではすすり泣きの声があちらこちらから聞こえた。

会場を感動の渦に巻き込んだ阿部さん。

実は当日は阿部さんの誕生日で、参加者全員

で誕生日をお祝いした。

演奏終了後、サプライズとして用意したケーキとワイン、そして、参加者全員による「ハッピーバースデートゥーユー」の歌声をプレゼント。

その後、阿部さんも交流会に加わり、学生との会話を楽しんでいらっしゃった。

やることがまだたくさんあることを確認する、企画部がにわかに忙しくなってきた。あれはどうだろうか、これはどうだろうか。ひとつひとつを確かめあい、共有していった。会計、涉外、会場、ゲーム、ゲスト、広報、事務……。それぞれの仕事の枠がはずれ、すべてがひとつになっていくのを感じられた一週間であった。

前夜、準備OK！しっかりと寝て明日に備えようと思つたとき、誰もが気がつかなかつた一つのことに気がついてしまつた。

会場利用許可書が行方不明

月の努力が水の泡になつてしまふ。そんな焦る気持ちで寝られなかつた。

「僕が持っていますよ」

この一声で一気に脱力しつつも、気合を入れなおし、会場の準備に取りかかった。

当日の早朝、先生から電話がかかってきた。いつもの笑い声を交えながら、「科生2名と留学生2名によるスピーチをしても、参加者に自分の考え方、価値観、体験談などを話していただいた。スピーチのテーマは、



司会のアナウンスが入り、部長、鹿庭の挨拶。次いで留学生の紹介があり、学科長、鳥越先生による乾杯によつて幕が開いた。

料理を片手に、途中、簡単なゲームを挟みつつ、先日学んだマナーを実践しながら初めて出

会う人との会話を弾ませていた。中盤には、学

科生2名と留学生2名によるスピーチをしても、参加者に自分の考え方、価値観、体験談などを話していただいた。スピーチのテーマは、

演奏とともに、学生時代の夢や、Syncopationなどで活躍する日々、そして海外へ行くために必要な知識を伝授していただいた。

最後の曲、「There is Hope」は阿部さんが書

た。そんな中、16時40分、会場の扉が開き、学科祭に参加する人たちが続々と集まつてきた。シャンデリアが照らす部屋。なかなかの雰囲気が会場に漂う中、定刻より5分遅れで学科祭が始まつた。

司会のアナウンスが入り、部長、鹿庭の挨拶。

次いで留学生の紹介があり、学科長、鳥越先生による乾杯によつて幕が開いた。

料理を片手に、途中、簡単なゲームを挟みつつ、先日学んだマナーを実践しながら初めて出

会う人との会話を弾ませていた。

中盤には、学

科生2名と留学生2名によるスピーチをしても、参加者に自分の考え方、価値観、体験談などを話していただいた。スピーチのテーマは、

演奏とともに、学生時代の夢や、Syncopationなどで活躍する日々、そして海外へ行くために必要な知識を伝授していただいた。

最後の曲、「There is Hope」は阿部さんが書

最高の一晩のはじまり

当日は、北風が強く、とても肌寒い天候だった。そんな中、16時40分、会場の扉が開き、学

科祭に参加する人たちが続々と集まつてきた。シャンデリアが照らす部屋。なかなかの雰囲気が会場に漂う中、定刻より5分遅れで学科祭が



終わりではなく始まりへ

楽しい交流の時間もあつという間に終わり、最高の盛り上がりを見せた学科祭も残念ながら終焉を迎えた。しかし、学科祭は終わるうとも、これは決して終わりではない、むしろ始まりの第一歩、First Stepなのだから。

この学科祭の余韻がいつまでも続き、それが各自のFirst Stepへの大きな力となつてほしい。そして、それが国際文化交流学科の発展につながることを強く願う。最後に、今回の学科祭運営にあたって、鳥越輝昭先生、鈴木彰先生ほか、学科関係者の方々、人文学会の皆様に感謝し、筆を置く事にする。



国際文化交流学科第1回学科祭Website
<http://www.fry.to/kokusabunka/>